

去る8月30日、第8回土木系学生会が九州ブロックと東京ブロックの交歓という形で黒部ダム見学を行ないブロック間の交流に大いに役立ったと思われます。

東京とちがって同じ九州でも福岡大学と宮崎大学では300kmも離れているという地理条件の中で、横のつながりを持っていくことは大変なことと思われませんがお互いに大いにがんばっていきましょう。

これを機会に関西・東北・北海道にも各ブロックが作られ、ブロック内で独自に交流を計りながら一年に一度、全国的な集集を持つということは土木科学生の絶対数が少ないのでお互いにはげみになってよいかと思われま。

なお、本欄は土木系学生会のための連絡欄でありますから、近い将来各ブロックによる自主編集をやっていたきたいと思います。

去る7月5日、九州大学において土木系学生会の九州ブロックの結成が行なわれ、参加した六大学は九州大、九州工業大、九州産業大、福岡大、熊本大、宮崎大であったという報をきき、夏休みを機会に黒部川第四ダムで、東京、九州両ブロックの交歓を兼ねた見学会を行なうことになった。

それに先立ち、当番校中央大学で「黒四のための映画と講演の会」が以下の要領で開かれた。

日 時 7月8日午後3時～5時  
記録映画 「地底の凱歌」  
講 演 「黒部川とその開発」

河村氏 (学会編集部)  
「黒四におけるコンクリートと骨材」  
中央大学 西沢助教授

関西電力のご好意でお借りした映画の上映後、河村氏が昨年、黒四を見学された際の経験を交え、土木技術者が幾十年にわたってうけ継ぎ、うけ継がれた黒部川にかけた執念にも似たねばり強さとその偉大な事業について語られた。西沢助教授は関西電力の技術陣が骨材採取場を決定するまでに払った苦心にふれ、候補地にのぼっていた扇沢出合と高瀬川河原との二地点のうち、後者に決定したいきさつについて語り、一つ一つの努力の積み重ねが高さ186mの大アーチ式ダムとなり、具体的にあらわれたのであり、人間の微小な力でもその総和がいかに偉大なものとなるかを黒四ダムを例として示し、われわれ将来の土木技術者が責任を自確することを期待して話を結ばれた。

残念なことに夏休みであったため連絡不足で参加者は少なかった(早大1, 法大1, 中大32)。

その後、関西電力東京支社のご厚意でトロリーバスの切符が手に入り、さらに関西電力本社建設部、学会編集部のお骨折りで一般公開されていない地下発電所の見学が20人に限り可能になった。

皇太子殿下の黒四見学で日程が変更になった8月30日午前8時、信濃大町駅には土木系学生会の旗の下に、7大学の土木科学生64人が集まった(九大3, 日大6, 法大5, 早大4, 武蔵工大4, 中大42)。なごやかな雰囲気の中法政大学からの唯一の女性参加者を交えて拍手の中で各大学が紹介され、東京ブロックと九州ブロックがここに初対面したわけである。

折りから急に降り出した雨の中をわれわれは大学のネームプレートを胸にバスにのりこむ。日曜にもかかわらずわざわざ出かけられた関電の黒四管理事務所の真木健治郎氏の説明で北大町駅のセメントサイロを見学、さらに高瀬川の骨材採取場をみる。山なす骨材と長大な数本のベルトコンベアがさびついたまま天空に突き出したまま停止している様子は荒涼としておりアクション映画の決斗シーンにぴったりだという者もあった。

管理事務所にはわざわざ川本正身技術課長が来ておられ、また、真木氏の「ダム基礎の処理」に関してカーテングラウトとドレインについての講演があった。日頃、授業では聞けない興味深いもので、壁をうめた図面を前に熱のこもったお話を、貯水池からの浸透水を防止するためカーテンのようにはりめぐらされたグラウトは外部からは見えないが、これらの目に見えない数多くの工事がダム本体をさきえているということにわれわれは強く感動した。どしゃぶりの雨の中をバスにゆられながら各大学の交歓があり、秋の学園祭での土木科の展示内容が紹介された。

扇沢出合からの関電トンネルは5.4kmにおよび一般観光客と一緒にトロリーバスに乗りこむ。乗客はまだ見ぬダムに思いを馳せながらバスはたんたん進む。それだけに一層、ここを1m, 1mわれわれの先輩達が血の出るような努力をしたのだという思いにわれわれは暗い闇の中に何かを求めるとい目ですえ続けた。

バスをおりたときのわれわれの感動はすごいものだった。縦横に掘られたトンネルにじかに立って、嘆声をこめていった。「オレたちにもこんなすごいことかできるのだろうか。」これは人間のやったこと、そして将来われわれがやるであろうこと。ちょっと信じられなかった。人間とは一体何だろうか。

トンネルをぬけると黒部ダムだった。赤いほっぺのモンペの少女は見えなかったかわりにみんな一様に嘆声をあげていた。折りから雨が上がり、ガスがどどんきれて青空がみえてくるダイナミックな一瞬だった。北アルプスは立山連峯の谷深く、こんな所にダムができていようとは。すごいボリューム。美しいアーチもドームの曲線。これは人間の偉大な行為の証しである。ダム サイトでは土木系学生会の旗は大いに効力(?)を発揮して現場の技術者の方から、写真を交えたくわしい説明をしていただいた。

ここで参加者 64 人のうち罪深いアマダクジやジャンケンポンで勝ち抜いた幸運な 20 人はマイクロ バスで地下発電所見学にむかった。途中、斜度 34° 0.8 km におよぶインクラインにたまたげ、手塚治虫のマンガに出てくるような高さ数メートルのでかいトランスのある地下



発電所は電気の臭いがした。

無事見学をおえて信濃大町に着いたのが午後 5 時、「来年はぜひ九州で全国大会をやりましょう。」ファイトあふれる九州男子に東京勢は圧倒されていた。

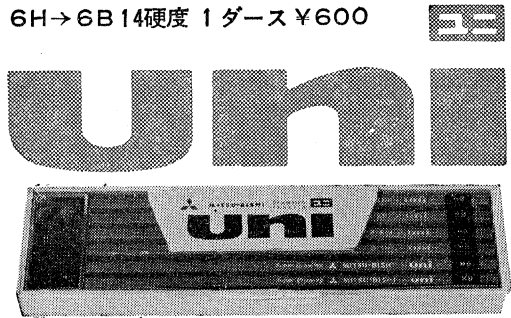
終りに関電吉田建設部長、大長氏、はじめこの見学会にご協力下さった方々がいかに多かったか、また、いかに親切にして下さったかをお伝えして心から感謝の意を表する。

今月の担当者：中央大学 { 吉田忠功  
真船晃明

長い線でも  
同じ細さに

かき始めも 先端がくずれない  
途中でもかき減りが少ない

6H→6B 14 硬度 1 ダース ¥600



三菱鉛筆